

沈約郊居賦雷張同箋補正

沈約は、梁書に於て、「該悉舊章、博物洽聞、當世取則」と稱せられ、又「謝玄暉善爲詩、任彥昇工於文章、約兼而有之」と讃へられてゐることによつても明らかなるやうに、其の非凡な文才と卓越せる學識とを以て、宋・齊・梁三代の文苑に君臨した六朝屈指の文人である。

而して此處に取り上げようとする、有名な郊居賦は、彼がその晩年、梁都東郊の隱居にあつて、構思時を積み、鍊骨の苦心を傾けて作り上げた畢生の名作である。さればこそ、梁書は、此の賦が實に二千六百字に及ぶ稀有の長篇であるにも拘らず、彼の本傳に、敢へて其の全文を収録したのであらうし、又、例へば梁元帝玄覽賦の「繁萬嶺而俱青」なる表現が、郊居の「遠望則百嶺俱青」に據つたものであり、唐李白大獵賦の「明無幽而不燭兮、澤無遠而不施」が、「德無遠而不被、明無微而不燭」に本づいたものであるが如く、此の賦の表現が、後代文士の喜びて引用する所となつたのである。

周知の如く、沈約が生きた齊梁の間は、魏晉以來六朝四百年に涉つて盛行して來た駢賦が、其の表現に於て、彫琢の極致に達した時代である。郊居賦が、かうした絢爛たる時代の文壇にあつて、長く領袖の位置を占めた沈約の代表作であつてみれば、此の賦に、最も洗練された、典型的な駢賦の一つの姿を見出し得るのは、當然なことである。沈約は、此の賦に於て、かの梁書王筠傳に引かれた彼と王筠との興味

ある會話が其の一端を示す如く、音調の諧和に纖細な注意を拂ふと共に、亦一方、殆ど全句に涉り、絶妙極まりない典故の編綴を試みてゐるのである。だから、他のかかる作品と同様に、此の賦に用ひられた語句の出典を明らかにすることは、この作品を解釋する爲に必要であるばかりでなく、一層立體的に之を玩味する上に、更に重要である。

岡村 繁

凡そ、古來の文學作品に對する箋釋の數は、經書のそれが汗牛充棟の盛觀あるに比して、極めて微々たる現狀であるが、郊居賦も其の例に洩れず、此の賦に施された箋注を求むれば、管見の及ぶ所、唯清の乾隆年間に刊行された「賦鈔箋略」一書に止まる。此の書は、雷琳（曉峰）、張杏濱（香圃）の兩氏が、周漢より清に及ぶ優れた賦約百三十篇について箋釋を加へたものであつて、郊居賦の箋は、其の卷四に收められてゐる。此の箋は、一見して明らかな如く、典故の援引や史實の究明、さては文義の解釋、文字の校勘まで、あらゆる面に涉つて言及されてゐるが、就中典故の指摘に最も力を注いでゐるものやうである。私が此の箋のあることを知つたのは、本年春、私なりに漸く郊居賦を讀み終らうとした頃であるが、それまで私が氣付いて書き留めておいた典故と此の箋とを比較して見ると、私の研究の至らなかつた點を是正されることが甚だ多かつたと共に、此の箋の説で、私が承服し難い個所や、まだ指摘されてをらない典故も亦決して少くはなかつ

た。本稿は、かうした疑點を抜き出して、之に私の見解を加へ、以て博雅の叱正を仰いだものである。

尙、解釋や史實の上でも、此の箋には、私が指摘しなければならぬ多くの問題を含んでゐるが、本稿には唯典據に關するものだけを取り上げたのは、決してそれらを輕視したわけではなく、全く紙數の制限によるものであることをお断りしなければならぬ。

惟至人之非已。

(箋) 莊子、「不離於眞、謂之至人」賈誼鵩鳥賦、「縱軀委命兮、不私與已」。

(正) 莊子、見天下篇。賈誼賦、見文選。案箋所引、恐非。此疑當引莊子逍遙遊、「至人無己、神人無功、聖人無名」。

獸因窟而獲聘、鳥先巢而後翔。

(補) 淮南子齊俗訓、「夫飛鳥主巢、狐狸主穴。巢者巢成而得棲焉、穴者穴成而得宿焉。趨舍行義、亦人之所棲宿也。各樂其所安、致其所歸」。

僑棲仁於東里。

(補) 論語憲問篇、「或問子產。子曰、「惠人也」」左傳昭二十年、「及子產卒、仲尼聞之出涕。曰、「古之遺愛也」」論語憲問篇、「子曰、「……東里子產潤色之」」。

鳳鳴跡於西堂。

(箋) 宋書、「謝靈運有志高隱。嘗作逸民賦曰、「其見也則如游龍、其潛也則如隱鳳。」爲永嘉太守、嘯詠西堂、不屑屑簿書之役」。

(正) 箋引宋書、無考。案上文陳・嬰・僑、或稱姓、或標名。此「鳳」亦當做上。箋所斥、恐非。後漢書逸民傳、「高鳳字文通、南陽葉人也。少爲書生。家以農畝爲業、而專精誦讀、晝夜不息。……乃教授業於西唐山中」論、「若伊人者、志陵青雲之上、

身晦泥汗之下。」李賢注、「山在今唐州湖陽縣西北。酈道元注水經云、「即高鳳所隱之西唐山也。」堂與唐字通。史記魏世家「趙倉唐、漢書古今人表作「趙倉堂」。可證。但未見「西唐山」作「西堂山」者。俟考。

思依林而羽戢、願託水而鱗藏。

(箋) 何允書、「夫鳥居山上、仍棲木末。魚潛淵下、窟穴泥沙。」

(正) 何允書、未知其所據。案廣弘明集二十四劉峻東陽金華山栖志、「夫鳥居山上、層巢木末。魚潛淵下、窟穴泥沙。」(亦見類聚三十六)入蓬藿之荒茫。

(箋) 莊子、「逃蓬藿者、聞足音愷然而喜。」

(正) 莊子、見徐無鬼。但原文作「夫逃虛空者、藜藿柱乎騰馳之逕。……聞人足音愷然而喜矣。」而無「蓬藿」語。蓋箋妄改耳。

亦風除而雨攘。

(補) 詩小雅斯干、「風雨攸除。」

(補) 詩召南、有「江有汜」。毛傳、「水決復入爲汜。」

或彈冠而來至。

(箋) 漢書王吉傳、「吉與貢禹爲友。世稱、「王陽登位、貢禹彈冠。」

(補) 亦漢書蕭育傳、「長安語曰、「蕭朱結綬、王貢彈冠。」

集蠅虞於天步。

(補) 詩小雅白華、「天步艱難、之子不猶。」

延亂麻於井邑。

(箋) 晉書、「死人如亂麻。」

(正) 晉書、疑漢書之誤。漢書武五子傳贊、「死人如亂麻、暴骨長城之下、頭盧相屬於道。」

大地曠而靡容。

(補) 宋書謝靈運傳載詣闕自理表、「普天之下、自無容身之地。」

昊天遠而誰訴。

(補) 詩王風黍離、「悠悠蒼天，此何人哉。」鄭箋、「遠乎蒼天，仰觀欲其察已言也。」休文語，蓋本鄭箋文。

逢時艱之孔棘。

(補) 詩小雅雨無正、「維曰于仕，孔棘且殆。」

違危邦而寤驚。

(補) 論語泰伯篇、「子曰、『……危邦不入，亂邦不居。』」

肇胥宇於朱方。

(補) 詩大雅緜、「爰及姜女，聿來胥宇。」

掩間庭而晏息。

(補) 易隨卦象傳、「澤中有雷，隨。君子以嚮晦入宴息。」

值龍顏之鬱起。

(箋) 漢書、「高祖、隆準龍顏。」

(正) 漢書，見高帝紀。案文選袁宏三國名臣序贊、「時值龍顏。」引

漢書，不如引袁宏文。

面淮流之清直。

(補) 詩魏風伐檀、「河水清且直洌。」

芳塵浸而悠遠。

(補) 芳塵譬德化。文選謝朓和王著作八公山詩・沈約宋書謝靈運傳論李善注，並引陸機大暑賦、「播芳塵之馥馥。」

世道忽其窳隆。

(補) 窳隆猶汚隆。禮記檀弓上、「子思曰、『昔者，吾先君子，無所失道。道隆則從而隆，道污則從而污。』」

蘇四代於茲日。

(箋) 言自宋迄梁，居健康者四代。

(正) 案箋說甚謬。禮記學記、「三王四代，唯其師。」鄭注，「四代，虞・夏・殷・周。」

若實穉之從風。

(箋) 晉書，「符堅謂羣臣，『今以勁卒百萬，鼓行而播遺晉，若商風之隕秋穉。』」

(補) 晉書，見符堅載記下。詩豳風七月，「十月隕穉。」實與隕同。乍容身於白社。

乍容身於白社。

(箋) 晉董京傳，「京字威聲。嘗宿洛陽白社中，時乞於市。」

(正) 晉書，見隱逸傳。案引晉書，不如引神仙傳。類聚七十八葛洪神仙傳，「董威聲，不知何許人。晉武末，在洛陽白社中寢息。身上藍縷，衣不蔽形。恒吞一石子，經日不食。或市乞傭作。人或往觀之，亦不與言。時或著詩。莫知所終。」董京宿白社事，亦見書鈔一百六十・御覽六百六十二神仙傳，御覽八百一十八晉陽秋，書鈔一百二十九・類聚六十七・御覽五百二王隱晉書，書鈔八十七・御覽五百三十二習鑿齒逸民高士傳。

亦寄孥於伯通。

(箋) 後漢書，「梁鴻、隱霸陵山中。耕織爲業，詠詩彈琴以自娛。爲四浩以下二十四高士作頌。後挈妻子遊吳中，居臯伯通廡下，爲賃春。妻具食，舉案齊眉。」

(補) 國語鄭語，「史伯對曰，『……寄孥與賄焉。』」箋引後漢書，見逸民傳。案梁鴻寄伯通事，亦見高士傳下。

迹平生之耿介。

(箋) 後漢書王符傳，「符耿介不同於俗。乃隱居著書。號潜夫論。」

(正) 案箋引後漢書，未安。此當引楚辭九辯，「獨耿介而不隨兮。」實有心於獨往。

實有心於獨往。

(箋) 淮南子，「山谷之人，輕天下，細萬物而獨往。」

(補) 箋引淮南子，今本無此文。但，文選謝靈運入彭蠡湖口詩・江海之士，山谷之人，輕天下，細萬物而獨往者也。」司馬彪注，「獨往，

任自然不復顧世。」

望東臯而長想。

(箋) 潘岳秋興賦、「耕東臯之沃壤兮、輸黍稷之餘稅。」

(正) 箋引秋興賦、未安。此疑當引文選阮籍奏記、「方將耕於東臯之陽、輸黍稷之稅、以避當塗者之路。」

本志情於徇物。

(補) 列子仲尼篇、「知而忘情、能不為、真知真能也。」

徒羈縻於天壤。

(箋) 晉書王戎傳、「戎嘗經黃公酒壚。顧謂後車客曰、「吾昔與嵇叔夜、阮嗣宗、酣飲於此。自嵇、阮云亡、吾便為時所羈縻。今日視之雖近、邈若山河。」」

離近、邈若山河。」

(正) 世說傷逝篇、「王濬沖……經黃公酒壚下過。顧謂後車客、「吾昔與嵇叔夜、阮嗣宗共酣飲於此壚。……自嵇生天、阮公亡以來、便為時所羈縻。今日視此雖近、邈若山河。」」引晉書、不如引世說。

事滔滔而未合。

(箋) 何遜詩、「生途稍冉冉、逝水日滔滔。」

(正) 何遜詩、即聊作百一體詩。案箋所引、恐非。此當引論語微子篇、「滔滔者、天下皆是也。而誰以易之。」

志悄悄而無爽。

(箋) 張衡賦、「悲離居之勞心兮、悄悄而思歸。」

(補) 張衡賦、即思玄賦。見文選。詩陳風澤陂、亦「寤寐無為、中心悄悄。」

路將彈而彌峭。

(箋) 潘尼西道賦、「路深地狹、坂峭軌長。」

(正) 西道賦、疑惡道賦之誤。見初學記二十四。

情薄暮而踰廣。

(箋) 陸機歎逝賦、「年彌往而念廣。」

(補) 案陸機歎逝賦、下文曰、「塗薄暮而意迨。」當補。抱寸心其如蘭。

(補) 列子仲尼篇、「文學……曰、「嘻、吾見子之心矣。方寸之地虛矣。」」

詠歸歎(箋略作與、今依梁書改)而踟躕。

(補) 論語公冶長篇、「子在陳曰、「歸與歸與。」」案今論語、作「歸與」而不作「歸歎。」然文選王粲登樓賦、「昔尼父之在陳兮、有歸歎之數音。」李注、引論語此文亦作「歸歎。」

何凶昏之孔熾。

(補) 詩小雅六月、「玃狁孔熾。」

寧方割於下壘。

(箋) 尙書、「洪水方割。」「下民昏墊。」

(正) 尙書、見堯典及益稷。案文選張協雜詩、「洪潦浩方割、人懷昏墊情。」疑休文所本。

德無遠而不被。

(補) 書大禹謨、「惟德動天、無遠弗届。」

明無微而不燭。

(補) 文選劉琨勸進表、「陛下、明並日月、無幽不燭。」

鼓玄澤於大荒、播仁風於遐俗。

(箋) 齊劉虬答竟陵王書、「玄澤既灑、仁規先著。」

(正) 劉虬書、見南齊書高逸傳。但原文作「遠澤」而不作「玄澤」。疑箋妄改耳。

關終古而遐念。

(補) 楚辭九歌(禮魂)、「長無絕兮終古。」文選潘岳西征賦、「超長懷以遐念、若循環之無賜。」又宋書傅亮傳載感物賦、「眇今古以遐念、若循環之無終。」

(補) 詩大雅常武、「王猶九塞。」猶，荀子君道篇。議兵篇。韓詩外傳六引詩，並作「猷」而與此賦合。值衡圖之盛世。

(箋) 尙書中侯，「帝堯即政。龍馬衡圖。赤文綠字，甲以龜背五色，有列星之分，斗政之度。帝王紀錄與亡之數。」

(正) 尙書中侯，見類聚十一。又，論語子衡篇疏。杜預左傳序正義，亦並引而有刪節。但三書，並作「衡甲」而不作「衡圖」。恐箋妄改耳。案類聚四十七。御覽二百九，並引春秋運斗樞，「黃帝，與大司馬容光，觀鳳(御覽「鳳」下有「皇」字)衡圖，置黃帝前。」與此賦「衡圖」正合。休文所據。是春秋運斗樞，而非尙書中侯。

排陽鳥而命邑。

(補) 文選左思蜀都賦及張協七命李善注，並引春秋元命苞，「陽成於三。故日中有三足鳥。鳥者陽精。」

就鄙夫之易失。

(補) 論語陽貨篇，「子曰，『鄙夫可與事君也與哉。其未得之也，患得之。既得之，患失之。苟患失之，無所不至矣。』」

譬叢華於楚趙，每驕奢以相越。

(箋) 史記，「趙武靈王，起叢臺。」又，鄒陽書，「全趙之時，武力鼎土，炫服叢臺之下。」左傳，「楚子成章華之臺，願與諸侯落之。」

(正) 箋引史記，今本無此文。但文選張衡東京賦註引史記，「趙武靈王，起叢臺。」又御覽一百七十七史記(御覽作漢書)，今改，「趙武靈王，建叢臺於邯鄲。」鄒陽書，見漢書本傳。左傳，見昭七年。

案箋引史記，鄒陽書及左傳，並未安。此疑當引文選張衡東京賦，「是時也七雄並爭，競相高以奢麗。楚築章華於前，趙建叢臺於後。」

築甲館於銅駝。

(箋) 後漢書，「梁冀與妻孫壽，起甲第於洛陽銅駝街。對街爲宅，彈極土木。」魏志，「張遼有戰功。文帝爲起甲第一區。」

(正) 後漢書，見梁統傳。但原文作「冀乃大起第舍，而壽亦對街爲宅。彈極土木，互相誇競。」而無「甲第」。「洛陽銅駝街」語。蓋箋妄改耳。魏志，見張遼傳。但原文作「爲起第舍」，而不作「爲起甲第一區」。蓋箋妄改耳。

開重廊於華閭。

(箋) 張衡周天象賦，「或重廊而御侮。」

(正) 案古書無張衡爲周天象賦之證。張溥輯張河間集，收錄此賦，恐誤。嚴可均曰，「今考是李播所撰，(案唐書藝文志三，載黃冠子李播天文大象賦一卷)編入隋文。」(全後漢文五十二)

豈蓬蒿所能沒。

(補) 三輔決錄，「張仲蔚，少與同郡魏景卿，隱身不仕。所居蓬蒿沒人。」

(補) 三輔決錄，見文選江淹詣建平王上書李注，類聚八十三。御覽九百九十七。高士傳中，「張仲蔚者，平陵人也。與同郡魏景卿俱修道德，隱身不仕。……常居窮素，所處蓬蒿沒人。」

放傳嗣於堯壤。

(箋) 說苑，「孫叔敖相楚。將卒，屬其子曰，『我死，君若封汝，則請封寢邱。以其地堯，人所不爭也。』」

(正) 說苑，未知其所據。後漢書丁鴻傳，「(丁) 琳曰，『昔，孫叔敖勸其子，受封必求堯壤之地。』」蓋休文語所本。叔敖戒子事，詳見於列子說符篇。呂氏春秋異寶篇。淮南子人間訓。

不慕權於城市。

(箋) 龐公傳，「公居峴山之南，未嘗入城市。」

(正) 龐公傳，見後漢書逸民傳。但原文作「城市」而不作「城市」。箋所引，恐非。後漢書方術傳上(廖扶)，「常居先人家側，未曾入城市。」

豈邀名於屠肆。

〔箋〕魏志、「人勸禰衡往謁司馬伯達。衡曰、「我豈邀名位於屠沽見者耶。」

〔正〕魏志、疑魏志注之誤。魏志荀爽傳注引平原禰衡傳、「衡、字正平。……或問之曰、「何不從陳長文、司馬伯達乎。」衡曰、「卿欲使我從屠沽兒輩也。」而無「豈邀名位」語。後漢書文苑傳下（禰衡）、略同。蓋箋妄加之。

〔補〕〔箋略作永、今依梁書改〕希微以考室。

〔補〕宋嘗陶潛傳載歸去來辭、「問征夫以前路、恨晨光之希微。」晉書本傳、同。〔希微〕、文選作「熹微」。

遷邇闢於蘭室。

〔補〕禮記儒行篇、「儒有一畝之宮、環堵之室。篋門圭鬻、蓬戶甕牖。」又、莊子讓王篇、「原憲居魯。環堵之室、茨以生草。蓬戶不完、桑以為樞。而邇邇二室、褐以為塞。」〔甕牖〕語、亦見呂氏春秋下賢篇。淮南子原道訓。

同肩墻於華堵。

〔補〕類聚八十六、初學記二十八潘岳河陽庭前安石榴賦、「土階無等、肩墻惟淺。」

漸沼沚於鬻垂。

〔補〕詩召南采芣、「于以采芣、于沼于沚。」

餐嘉實而却老。

〔補〕史記孝武紀、「有李少君。亦以祠竈穀道卻老方見上。上尊之、少君者、故深澤侯。入以主方。置其年及所生長、常自謂七十。能使物卻老。」

振羽服於清都。

〔箋〕列子、「清都紫微。」

〔正〕列子、見周穆王篇。案引列子、不如楚辭遠遊、「遠旬始而觀清都。」

沈約郊居賦雷震同箋補正（岡村）

或繁窻而窺闕。

〔補〕老子下、「不出戶知天下、不窺闕見天道。」

石崇則雜果萬株。

〔箋〕石崇思歸引序、「柏木幾於萬株。」

〔正〕石崇文、見文選。但此賦曰「雜果」而不曰「柏木」。箋所引、恐非。御覽九百六十四石崇金谷詩序、「雜果幾乎萬株」。與此賦「雜果萬株」正合。休文所據、是金谷詩序、而非思歸引序、甚明。

羅窻映戶。

〔補〕文選謝靈運甲南樹園激流植援詩、「羣木既羅戶、衆山亦對窻。」

抽紅英於紫帶。

〔補〕類聚八十九傅咸舜華賦、「紅葩紫帶。」

其林鳥則翻泊頡頏。

〔補〕詩邶風燕燕、「燕燕于飛、頡之頡之。」

遺音下上。

〔補〕詩邶風燕燕、「燕燕于飛、下上其音。」

或綠衿而絳纈。

〔箋〕易林元、「元蠶絳纈、東歸高翔。」

〔正〕易林、無考。但履、「玄蠶黑纈、東歸高鄉。」而無「絳纈」語。

蓋箋妄改耳。

其水禽則大鴻小鴈。

〔補〕詩小雅鴻鴈、「鴻鴈于飛。」毛傳、「大曰鴻。小曰鴈。」休文謂蓋本毛傳文。

曳參差之弱藻。

〔補〕詩周南關雎、「參差荇菜、左右流之。」又、「參差荇菜、左右采之。」又、「參差荇菜、左右芣之。」

戲瀾灑之輕軀。

〔補〕文選潘岳閑居賦、「遊鱗灑灑、齒齒數披。」

小則戲落成文。

(補) 文選張衡東京賦、「渚戲躍魚、淵游驅鱗。」大則噴流揚白。

(補) 類聚九謝靈運長谿賦、「潭結綠而澄清、瀨揚白而戴華。」不遷植於洪水。

(補) 詩衛風淇奥、「瞻彼淇奥、綠竹猗猗。」又、「瞻彼淇奥、綠竹青青。」又、「瞻彼淇奥、綠竹如簣。」

來風南軒之下。

(箋) 風賦、「空穴來風。」

(正) 風賦、見文選。案此當引楚辭七諫(初放)、「便娟之修竹兮、寄生乎江潭。上蔽蔭而防露兮、下泠泠而來風。」

觀先識之情僞。

(補) 易繫辭傳上、「子曰、『聖人立象以盡意、設卦以盡情僞。』」皆指難以爲易。

(補) 文選陸機豪士賦序、「又況乎鑿大名、以冒道家之忌、運短才而易聖哲所難者哉。」

不自已而求足。

(補) 老子下、「知足不辱、知止不殆。」

原農皇之攸始。

(補) 風俗通義皇霸篇、「尙書大傳說、……神農爲農皇也。……神農悉地力種粟蔬。故託農皇於地。」

肇變腥以粒食、乃人命之所儲。

(補) 王嘉拾遺記五、「自鑽火變腥以來、父老而慈、子壽而孝。」書益稷、「丞民乃粒。」

顏篋食而樂在。

(補) 論語雍也篇、「子曰、『賢哉回也、一簞食、一瓢飲、在陋巷。人不堪其憂。回也、不改其樂。賢哉回也。』」又述而篇、「子曰、『飯

疏食、飲水、曲肱而枕之。樂亦在其中矣。』」鄭高廩而空虛。

(箋) 後漢書、「鄭玄字康成。學徒相隨數千百人。家貧不給於食。乃客耕東萊、鬪數百頃。」

(正) 後漢書、見鄭玄傳。但原文無「鬪數百頃」語。案「顏篋食而樂在」與下文「畝五十而有餘」、俱謂顏回。然則「鄭高廩而空虛」與下「頃四百而不足」兩句、亦當係於一人。箋所引、恐非。說見於下。

頃四百而不足。

(箋) 漢書、「張禹、內畜於財、有田四百頃、皆極膏腴、又奏求肥牛亭地。」

(正) 漢書、見張禹傳。案此當引張璠漢記、「鄭泰字公業。少有才略、多謀計。知天下將亂、陰交結豪傑。家富於財、有田四百頃、而食常不足。名聞山東。」(魏志鄭渾傳注、御覽八百二十一)後漢書鄭太傳、略同。張璠漢記及後漢書、與此賦正合。休文所指、是鄭泰而非鄭玄、張禹、無疑。

無憂憂於曉摩。

(箋) 三輔決錄、「孫晨字元公。家貧不仕。居杜城中、織箕爲業。爲郡功曹。冬月無被、有藁一束。暮宿其中、且即收之、以共鬻。」

(正) 三輔決錄、見類聚三十五。御覽四百八十五。但並無「以共鬻」三字。蓋箋所妄加。

臨異維而駢目。

(箋) 易繫辭、「巽、東南也。」

(正) 繫辭、疑說卦之誤。

羅方員而綺錯。

(補) 類聚六十五。御覽八百二十五王逸機賦、「方員(御覽作圓)綺錯、微妙窮奇。」

窮海陸而兼薦。

(補) 鮑照觀園人藝植詩、「遠養遍關市，深利窮海陸。」

肇舉鍾於疆秦。

(補) 漢書溝洫志、「舉甬爲雲，決滬爲雨。」

懷三鳥(箋略作鳥，今依梁書改)以長念。

(補) 楚辭九歎(憂苦)、「三鳥飛以自南兮，覽其志而欲北。願寄言於三鳥兮，去飄疾而不可得。」

實鑿(箋略作鑿，今依梁書改)期於晚歲。

(箋) 易、「愷期之志，有待而行也。」

(正) 易，見歸妹卦象傳。襄、當作齏。文選劉越石扶風歌、「惟昔李壽期，寄在匈奴庭。」此較易文爲勝。

非失步於方春。

(箋) 後漢書班固傳、「壽陵餘子，學步邯鄲，失其故步，匍匐而歸耳。」

(正) 後漢書班固傳、疑漢書叙傳之誤。漢書叙傳上、「昔有學步於邯鄲者，曾未得其髣髴，又復失其故步。遂匍匐而歸耳。」漢書又本莊子秋水篇。

何東川之瀾瀾(箋略作瀾瀾，今依梁書改)。

(補) 詩邶風新臺、「新臺有瀾，河水瀾瀾。」案「瀾瀾」、文選沈約安陸昭王碑文「長瀾瀾瀾」李注，引毛詩此文而作「瀾瀾」，與此賦合。

侍采旄而齊鸞。

(補) 楚辭遠遊、「建雄虹之采旄兮，五色雜而絳耀。」魏明帝樂府善哉行、「百馬齊鸞，御由造父。」

陪龍舟而遼渚。

(補) 詩豳風九罭、「鴻飛遼渚。」

或班騶而宴語。

沈約郊居賦雷張同箋補正 (岡村)

(補) 文選班固東都賦、「列金豐，班玉觴。」

緜帷一朝冥漠，西陵忽其蕙楚。

(補) 文選陸機弔魏武帝文、「悼緜帳之冥漠，怨西陵之茫茫。」每樂愷乎斯觀。

(補) 詩小雅魚藻、「王在在鎬，飲酒樂豈。」釋文、「豈，本亦作愷。」或浮白無算。

(箋) 漢書叙傳、「自大將軍薨後，富平侯張放、淳于長等，始愛幸禁中設宴，皆引滿浮白，舉觴大噉。」

(正) 漢書叙傳，見上傳。但原文作「舉白談笑」而不作「浮白舉觴」。蓋箋妄改耳。說苑善說篇、「魏文侯，與大夫飲酒。使公乘不仁爲觴政曰，「飲不噉者，浮以大白。」文侯飲而不盡噉。公乘不仁，舉白浮君。」此蓋休文所本。

貴則邴魏蕭曹。

(補) 文選班固西都賦、「蕭曹魏邴，謀謨乎其上。」

實接漢之後王。

(補) 文選張懷代吳令謝詢求爲諸孫置守塚人表李注引吳書、「初堅入洛，軍城南。甄官井上，每且有五色氣。舉軍驚怪，莫敢汲。堅命人浚探，得漢傳國璽。文曰，「受命于天，既壽永昌。」指衡岳而作鎮。

(補) 文選左思吳都賦、「指衡嶽以鎮野，目龍川而帶坳。」

(箋) 史記、「始皇葬驪山，發北山石爲櫛。」

(正) 箋引史記，今本無此文。但御覽五百五十二史記，「始皇葬驪山，發北山石爲櫛。」案史記文，與此似不愜。史記張釋之傳，「上……使慎夫人鼓瑟。上自倚瑟而歌。意慘悽悲懷。願謂羣臣曰，「嗟乎，以北山石爲櫛，用紵絮斷陳絜漆其間，豈可動哉。」……釋之前進曰，「使其中有可欲者，雖錮南山，猶有紵。使其中無可欲者，雖無石櫛，

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

徒微言於石櫛，遂延災於金縷。」

又何成焉。」文帝稱善。」此蓋休文語所本。

忽蕪穢而不修。

(補) 史記司馬相如傳載弔秦二世賦、「墳墓蕪穢而不脩兮、魂無歸而不食。」相如此賦、亦漢書本傳下。

同原陵之蕪穢。

(箋) 漢書食貨志、「山林藪澤原陵淳鹵之地、各肥磽多少為差。」

(正) 箋引漢書食貨志上、不如引張載七哀詩、「恭文遙相望、原陵鬱離離。」(文選)

寧知蟻蟻之與狐兔、無論樵芻之與牧豎。

(箋) 莊子、「地上為烏鳶食、地下為螻蟻食。螻蟻何親、烏鳶何仇。」

古詩、「狐兔窟其中。」說苑、「孟嘗君問雅門周曰、「先生鼓琴、能令文悲乎。」曰、「臣無能令足下悲也。然臣所為足下悲者、千秋萬世後、高臺圯、曲池平、墳墓壞、嬰兒牧豎、擲躡而歌其上也。」

(正) 莊子、見列御寇。但原文無「螻蟻何親、烏鳶何仇」語。文選陸機挽歌、「螻蟻爾何怨、螭魅我何親。」古詩、疑張載七哀詩之誤。

七哀詩、「狐兔窟其中、蕪穢不復掃。」說苑、見善說篇。但原文作「豎子」而不作「牧豎」。蓋箋所妄改。案箋引七哀詩、說苑、並未安。

此疑當引桓子新論、「雅門周、以琴見孟嘗君曰、「臣竊悲千秋萬歲後、墳墓生荆棘、狐兔穴其中、樵兒牧豎、擲躡而歌其上。」(文選張載七哀詩、任昉為下彬謝脁下忠貞墓啓李注)

風臺累粟、月榭重櫺。

(補) 顏延之發景陽樓詩、「風飄要春景、月榭迎秋光。」

蘭榭水戲。

(補) 楚辭九歌(湘君)、「桂櫂兮蘭枻。」左傳僖三年、「齊侯與蔡姬乘舟于圈、蕩公。」史記齊世家、亦「桓公與夫人蔡姬戲船中。蔡姬習水、蕩公。」

忽二紀以歷茲。

(補) 楚辭離騷、「謂遷心而歷茲。」又「委厥美而歷茲。」咸夷漫以蕩滌。

(補) 文選潘岳西征賦、「皆夷漫滌蕩、亡其處而有其名。」

回余睟於良域。

(補) 易說卦傳、「艮、東北之卦也。」

駕離騷之連卷。

(補) 楚辭七諫(自悲)、「惜浮雲以送予兮、載離騷而為旌。」

指咸池而一息。

(箋) 史記、「西宮咸池曰天五潢。」注、「咸池、三星。」離騷、「飲余馬於咸池、摠余轡乎扶桑。」

(補) 史記、見天官書。王逸離騷注、「咸池、日浴處也。」與史記注大異。案此賦「咸池」、與下「瑤臺」對文。則休文所據、殆是離騷而非史記。楚辭遠遊、「至南巢而壹息。」又惜誓、「攀北極而一息兮。」

香枝拂日。

(補) 楚辭離騷、「折若木以拂日兮。」

岑峯嶂岼。

(箋) 靈光殿賦、「岑岵嶂嶂。」注、「險峻貌。」

(正) 魯靈光殿賦、見文選。案文考則叙宮殿、休文則叙山岳。此疑當引司馬相如子虛賦、「其山則盤紆峩鬱、隆崇嶺卒、岑岵參差、日月蔽虧。」

詭狀殊形。

(補) 文選班固西都賦、「殊形詭制、每各異觀。」

洞穴斜經。

(箋) 顧凱之啓蒙記、「斜穴洞於波下。」

(正) 啓蒙記、見書鈔一百五十八。但作「潛穴洞於波下」、而無「斜穴」、「波下」語。蓋箋妄改。

千丈萬仞、三襲九成。

千丈萬仞、三襲九成。

〔箋〕 呂氏春秋、「有娥氏女，處九成之臺。」

〔正〕 呂氏春秋、見音初篇。文選馬融長笛賦、「託九成之孤岑兮、臨萬仞之石墜。」引呂覽、不如引長笛賦。

款跨郊壇。

〔補〕 類聚八謝靈運嶺表賦、「若乃長山款跨、外內乖隔。」爾雅釋地、「呂外謂之郊、……林外謂之圃。」

康斂衿於虛器。

〔補〕 後漢書和熹鄧皇后紀論、「斂衿於虛器。」

穆恭已於巖廊。

〔補〕 論語衛靈公篇、「子曰、「無爲而治者，其舜與。夫何爲哉。恭已正南面而已矣。」漢書董仲舒傳、「制曰、「蓋聞虞舜之時、游於巖廊之上、垂拱無爲而天下太平。」

殆隆平之可至。

〔補〕 文選班固東都賦、「卽土之中、有周制隆平之制焉。」

延二妃於湘渚。

〔補〕 劉向列女傳、「有虞二妃者，帝堯之二女也。長娥皇，次女英。……堯乃妻以二女，以觀厥內。……舜既嗣位，升爲天子。娥皇爲后，女英爲妃。……舜陟方，死於蒼梧。號曰重華。二妃死於江湖之間。俗謂之湘君。」

浮蘭煙於桂棟。

〔補〕 楚辭九歌（湘夫人）、「桂棟兮蘭楫。」

悅臨風以浩唱。

〔箋〕 楚辭、「陳卒瑟兮浩唱。」

〔正〕 楚辭、見九歌（東皇太一）。案此疑當引九歌（少司命）、「望美人兮未來、臨風悅兮浩歌。」

念甚驚騰。

〔箋〕 南史、「高帝積苦兵間、乃作塞客吟曰、「驚騰兮節汨、淮流兮

潺湲。」

〔正〕 南史、見蘇侃傳。案引南史、不如引齊書。齊書蘇侃傳、「上在兵中、久見疑於時。乃作塞客吟以喻志。……因爲塞上之歌。歌曰云云。」

生猶聚沫。

〔箋〕 謝靈運雜摩經十譬讚、「水性本無泡、激流遂聚沫。」

〔正〕 謝靈運讚、見類聚七十六。案此當引吳支謙譯雜摩經善權品、「是身如聚沫、澡浴強忍。是身如泡、不得久立。」

或攀枝獨遠。

〔箋〕 晉書、「桓溫行經金城。見少時手植柳已十圍、攀枝執條、泫然流涕。」

〔正〕 晉書、見桓溫傳。世說言語篇、「桓公北征、經金城。見前爲琅邪時種柳、皆已十圍。慨然曰、「木猶如此、人何以堪。」攀枝執條、泫然流涕。」引晉書、不如引世說。

或陵雲高蹈。

〔補〕 史記司馬相如傳、「相如既奏大人之頌。天子大說、飄飄有凌雲（漢書本傳下、作陵雲）之氣、似游天地之間意。」

得忘已於茲日。

〔補〕 莊子天地篇、「有治在人。忘乎物、忘乎天。其名爲忘己。」

天假余以大德。

〔補〕 論語述而篇、「子曰、「加我數年、五十以學易、可以無大過矣。」朱注、「劉聘君……自言、「嘗讀他論、加作假。……蓋加假聲相近而誤讀。」案史記孔子世家、「假我數年。」風俗通義窮通篇、「假我數年乎。」可證。

無希驥之秀質。

〔箋〕 晉書、「虞溥、除鄱陽內史。脩庠序招學徒。訓之曰、「學者不患才不及、患志不立。希驥之馬、亦驥之乘。希顏之徒、亦顏之倫

也。」

(正) 晉書、見虞溥傳。案箋引晉書、不如引楊子法言學行篇、「騏驎之馬、亦騏之乘也。騏驎之人、亦騏之徒也。」騏、古本或作希。說詳見胡克家文選考異(李康運命論)、及汪榮寶法言義疏二。重匪服於今皇。

(補) 文選庾亮讓中書令表、「遂階親寵、累忝非服。」時言歸於陋字。

(補) 詩小雅黃鳥、「言旋言歸、復我邦族。」聊暇日以翱翔。

(補) 楚辭離騷、「聊假日以愉樂。」又九章(思美人)、「聊假日以須時。」又九歎(遠遊)、「聊假日以須臾兮。」魚初沼而不網。

(補) 詩大雅靈臺、「王在靈沼、於初魚躍。」旋迷塗於去轍。

(補) 楚辭離騷、「回朕車以復路兮、及行迷之未遠。」案「行迷」、文選丘遲與陳伯之書李注引楚辭此文、而作「迷塗」、與此賦合。

風騷屑於園樹。

(箋) 劉向九歌、「風騷屑以搖樹兮、雲吸吸以湫戾。」(正) 九歌、疑九歎(思古)之誤。

雖外來而非假。

(箋) 謝靈運詩、「至樂非有假、安事澆淳朴。」(正) 謝靈運詩、疑陸機招隱詩之誤。見文選。

懼憂患其相溢。

(補) 此句、類聚六十四引作「憂與愁其相溢。」案楚辭九章(哀郢)、「心不怡之長久兮、憂與愁其相接。」蓋佚文所本。悲異軫而同歸。

權殊方而竝失。

(補) 鮑照觀漏賦、「情殊用而俱盡、事離方而同失。」以斯終老。

(補) 文選古詩、「同心而離居、憂傷以終老。」書事之官靡述。

(補) 禮記玉藻、「動則左史書之、言則右史書之。」漢書藝文志、「左史記言、右史記事。」不載於良史之筆。

(補) 左傳宣二年、「孔子曰、「董狐、古之良史也。書法不隱。」長太息其何言。」

(補) 楚辭離騷、「長太息以掩涕兮。」